

## 16: 引き分けについて

引き分けは打ち起こした弓を左右均等に引き分ける動作で、引き分けの動作は腰を中心とし、息合いと協応して、ゆったりと静かに左右均等に引き分け、弓矢と体との縦横十文字を構成する。

また矢は水平に且つ、体と平行に引き分け、頬づけの口割りの線まで矢束一杯に引く。

大三の場合外見では形が止まっているように見えるが、体全体の張りを考えての規矩である。

引き分けの良否は次の会、離れに大きく影響する

## 17: 会の重要性について

(・会における詰め合いと伸び合いについて)

会は形の上では引き分けの完成された状態であるが射手の心理で言えば無限の引き分けである。会において重要なことは詰め合いと伸び合いである。

会を構成する条件は縦横十文字の規矩を守ることであるがそのためには引き分けを正しく行うことである。会において縦横十文字の規矩を堅持し五重十文字を構成するには要所要所の詰め合いが十分であることである。

縦線の構成として両足底、腰、両肩が上から見たとき一枚に重なり、下半身を安定させるとともに上半身を伸ばし、三重十文字を構成する。

横線の構成として、両肩を起点として、両腕の張り合い、胸の中筋を持って左右に張り合うことが大切である。さらに押し手の角見、右肘の張り合いを効かせ左右均等に張り合うことが大切である。

伸び合いは矢束を引き伸ばすことではなく、気力の充実である。縦横十文字を軸として心を安定させ、気力の充実によってあたかも風船が破裂するかのよう離れることが大切である。

そのように精神、身体、弓矢が一体となり満を持し気迫をたたえ、天地左右に伸張して発射の機を熟させる。

## 18: 会における教歌 引く矢束、引かぬ矢束にただ矢束、放つ放れに放さるるかな。

軽妙で鋭い離れを生むために、日置弾正が詠んだ教歌である。

引く矢束とは、手先の技だけで押し引きして離す離れを言う。

引かぬ矢束とは、心の安定、気力の充実によって機熟し、自満の末に発する離れを言う。

ただ矢束とは、矢束は引き込むが、ただ保持しているだけの状態にあり離す離れを言う。

以上のうち「引かぬ矢束」を修練しなければならない。

早気やもたれにならないためにも、「引かぬ矢束」を体得し、伸合いに徹することが肝要である。「伸び合い」を教歌にしたものである。

伸合いは絶対不可欠の条件であり、伸合いの無い射は結局手先で離すことになる。

伸合いは矢束を引き伸ばすことではなく気力の充実である。縦横十文字を軸とし心を安定させ気力の充実によって気合の発動を促しあたかも風船が破裂するよう離れることが大切である。

会は心理的には不動の連続であり的に対する執着心や欲望、雑念を去り、正しい信念に基づき心気の充実につとめ、不安等の陰性を払拭しなければならない。

## 19: 丹田の充実について

射法訓に心を総体の中央におきとあるがこの総体の中央が丹田のことである。弓道における重要点に氣息、息合いがあるが息合いが最も充実するところが丹田であり、起居進退の発するところはすべて丹田である。

射法においては、打ち起こしの時に徐々に吐いた息を丹田に収め、大三に移行するとき静かに吸った息がさらに丹田に収められ、引き分けから会に至るまで少しずつ吐いていき、詰め合い、伸び合いの最中でも丹田は充実してゆき、離れにおける気合いの発動の原動力となる。